

總計	國名	居留地	居留地外
	男	女	計
丁墨西抹	1	1	2
總計	99	200	299
	396	236	632

九十一

○集會結社並新聞雜誌

集會結社警察署別

政談集會ハ二十三年以前ハ舊集會條例ニ依テ支配シ以後ハ新法ニ從テ支配セラレタリ而シテ政談集會ノ度數ハ二十年以來年々ノ増加ニシテ二十年ハ僅ニ二十五回二十一年ニハ十四回二十二年ハ八十九回二十三年ハ百九十五回ニシテ本年ニ於テハ四百七回ノ多キニ至レリ政談集會ノ度數漸次増加スルニ從テ講談論議者ノ數モ亦大ニ増加シ二十年ニ於ケル講談論議者ハ二百三十七人二十一年ハ二百二十五人二十二年ハ八百六十二人二十三年ハ八百九十八人ニシテ本年ニ於テハ千六百六十五人ノ多キニ至レリ集會解散ノ度數モ二十年ニ一回二十一年ニ二回二十二年ニ十七回二十三年ニ四回ニシテ本年ニ於テハ二十二回トス斯ク政談集會ノ漸次ニ増加スルハ我國今日ノ形勢ニ於テ固ヨリ至當ノ現象ナリトス而シテ其増加ノ比例ハ本年ヲ以テ二十年ニ比スレハ集會度數ハ殆ント十六倍講談論議者ハ殆ント五倍前年ニ比シテハ集會度數ハ一倍講談論議者ニ於テハ四分ノ一餘ヲ増加シタリ本年ニ於ケル政黨結社ハ京橋警察署管内ニ二芝愛宕町警察署管内ニ一淺草猿屋町品川兩警察署管内ニ各一トス而シテ政黨結社ヲ禁止シタルコトハ本年ニ於テ之ナシ但政黨結社數ハ年末現在ニ依ル

又屋外ノ集會ハ二回ニシテ外一回ハ認可セズ政談集會ニ警官ノ臨場シタルコト百二十九回非政談集會ニ臨場シタルコト十二回トス政談集會ヲ警察署ニ就テ區別スルトキハ淺草猿屋町下谷兩署管内ニ於テ最モ多ク京橋和泉橋久松町ノ各署管内ニ於テハ之ニ次ケリ

集會結社署別表

明治二十四年中

署名	政談集會ノ度數	講談論議者ノ數	講談論議ヲ停止シタル度數	集會ヲ解散シタル度數	政社ノ數	結社禁止ノ數	屋外集會及ヒ多衆運動ヲ認可シタル數	屋外集會及ヒ多衆運動ヲ禁止シタル數	政談集會ニ臨場シタル數	非政談集會ニ臨場シタル數
京橋	三八	一六〇	一三	七	二				二五	
久松町	三〇	七七							五	
和泉橋	七	一九							二	
芝愛宕町	三三	七三	二						七	
麻布	二二	八三	四						七	
品川	六	二三							〇	
高輪	三	四八							一	
牛込	八	三三	二						二	
赤坂	二〇	四二	八						五	
四谷	五	二八							二	
新宿	七	二六							二	

署名	政談集會ノ度數		講談論議者ノ數		講談論議タル度數		集會ヲ解散タル度數		政社ノ數		結社禁止ノ數		屋外集會及ヒ多衆運動ル可シタル數		認可セザル禁止シタル數		政談集會タル數		非政談集會タル數	
	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數	度數	ノ數
小川町	三	七	三	七	九	三	三	二	五									三		
木石郷																				
板橋																				
淺草猿屋町																				
淺草象潟町																				
下谷																				
千住																				
木所相生町																				
富岡門前																				
業平橋																				
小松川																				
水上																				
總計	四〇七	二、六五	六六	三三	五	二	一	二二九	三	三										

新聞雜誌

新聞雜誌ニシテ保證金ヲ納メ政事上ノ事項ヲ記載スルモノハ本年ニ於テハ七十八種ニシテ二十二年二十三年ニ比シ八種ヲ増加シ二十一年ニ比シ二十二種ヲ増加シ二十年ニ比シテハ四十四種ノ増加ナリトス而シテ發行停止ハ本年ニ於テハ二十二回ニシテ之ヲ五年間最多數トス二十年ハ十六回ニシテ之ニ次キ二十年ハ九回二十三年ハ六回二十一年ハ一回ニ過キス

又政事上ノ事項ヲ記載セサルモノ即チ學術技藝等ノ事項ヲ記載スルモノニシテ保證金ヲ納メサルモノハ本年ニ於テハ百四十種ニシテ二十三年ニ比シ三種ヲ増加シ二十二年ニ比シテ十種二十一年ニ比シ九種二十年ニ比シ三十六種ヲ減少セリ而シテ發行停止ハ本年竝ニ二十年ニ於テ各一回二十二年ニ二回ニシテ他ハ之レナシ

保證金ヲ要スルモノト要セサルモノト二者共ニ日刊ノモノアリ定時發刊ノモノアリ本年ニ於ケル細別左ノ如シ

新聞雜誌表

明治二十四年十二月末日調

種別	保證金ヲ要スルモノ		保證金ヲ要セサルモノ	
	種類	發行禁止	種類	發行禁止
日刊ニ係ルモノ	二四	一〇	八	
定時刊行ニ係ルモノ	五四	三	一三三	

○衛生

傳染病患者累年比較

本年ニ於ケル傳染病患者ハ凡テ三千二百五十四人ニシテ之ヲ二十三年ニ比スレハ殆ント半數ニ過キス而シテ痘瘡患者ハ殆ント全數三分一ノ多數ヲ占メ虎列刺病ノ如キハ三百三十二人ニ止ル故ニ之ヲ前年ニ比スレハ痘瘡患者ハ著シク増加シタルモ虎列刺患者ハ減シテ前年ノ十二分ノ一ニ降レリ其他腸窒扶斯ノ如キハ千四百餘人ノ多キニ至ルモ尙ホ前年ヨリ三百五十餘人ヲ減少セリ發疹窒扶斯赤痢ニ於テハ少許ノ増加アルモ實布埜里亞ハ略出入ナキモノ、如シ